



発行 特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス
 〒522-0043 彦根市小泉町 300-9 サノードビル 2F
 (TEL)0749-27-9777 ・ 21-0664 (FAX) 21-0665
 E-mail popohouse@nifty.com ホームページ <http://www.popo-house.jp/>

2011年度 ぽぽキッズくらぶ (3歳児) 募集中!



子ども同士で
つながる活動、
親同士で
つながる活動をし
ます。

「おともだちとあそぶのって
たのしいね!」
と感じる仲間づくりを意識し
た活動を行います。



2011年度 ぽぽキッズくらぶ 募集要項

- (対象) 2007年4月2日～2008年4月1日生まれ(満3歳児)
- (開催) 週2回(内1回お弁当日)
うさぎ組...月: 9:30～11:30. 木: 9:30～13:00(お弁当日)
りす組...火: 9:30～11:30. 金: 9:30～13:00(お弁当日)
- (定員) 各クラス 10組程度
お問い合わせは ぽぽハウス キッズルーム ☎21-0664 まで



定員になり次第締め切ります。ご了承ください。



NPOぽぽハウス 第11回 定期総会のお知らせ

日時: 2011年5月22日(日) 9:30～10:15 研修(内容未定)
10:20～ 総会

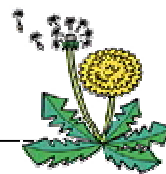
場所: 彦根市北老人福祉センター ハピネスひこね
会員のみなさまには、後日改めてご案内いたします。



「編集後記」市内を北へ向かって車を走らせると、白く雪化粧した伊吹山が目飛び込んで来ます。ここ数日、お天気が続いているのですが、一面の青空に浮かんだ雪山の景色を見ると、改めて自然の大きさ、美しさを感じます。ほんのひと月前には一面に降り積もる雪を見ながら、「また雪かき…」とため息をついていたのに、それすらも忘れるほどの、大好きな風景です。春は、もうそこまで!(P)

【誰もが「生きていてよかった」といえる街づくり】

ぽぽ だより



2011年2月25日発行



鬼は～そとっ!



スタッフ手づくりの鬼めがけて、
豆代わりの玉をぶつけて
厄払いをしました。



福は～うちっ!



おやつに
恵方巻きを
つくって
食べました。



今月の中間

- 県民協働事業(Baby & Child 応急手当お届け講座)報告
- 地域創造事業(キッズシェフ)報告
- 1.23 フォーラム 報告



地域創造事業

～地域の名人・達人・プロに学ぶ～ キッズシェフ養成講座

第2回 「さちこおばちゃんのおはぎづくりを学ぶ」

1月22日(土) ウィズにて



2010年度に
県や地域行政ととりくんでいる
2事業について報告します。

今年度、彦根市をはじめとする湖東地域の あそびひろば でおこなってきた「Baby&Child 応急手当のノウハウお届け講座」が、マスコミでとりあげられました！

今月はおはぎづくりに挑戦です。講師の先生のお話を聞く姿は、真剣そのものです。

まもなく会場は、もち米を炊くいい匂いとあたたかい湯気に包まれました。



ときどきワクワクしながら、待つこと15分！

鍋のふたを取り、一斉に中をのぞきこむ子ども達。

「うわぁ～っ！できたぁ～！！」と大喜びです。

その後、もち米をすりこ木でつぶして丸め、あんこで包んで出来上がりです。



ひとつひとつ、形や大きさは違って、とびきりおいしいおはぎが出来上がりました。

ボランティアさんも交え、和気あいの雰囲気の中、おいしくいただくことができました。(井口)



県民協働事業

Baby&Child
応急手当
お届け講座

新聞

・京都新聞

・読売新聞 「しが県民情報」版にて

(1月18日付)

子どもの急病 あわてず対処 という見出しで取り組みの経緯や、受講した保護者の方の声などを掲載していただきました。

テレビ

3月5日(土)

21:00～21:30

BBCびわ湖放送にて、

特別番組

「安心して救急医療を受けるために

～医療機関の上手な利用方法～

(日時・タイトル等は予定)

の中でも、活動が取り上げられる予定です。

ぜひ、ご覧下さい！



(河瀬公民館
わいわいひろばにて)

NPOぼぼハウスは
活動パネルを出展しました！



1.23フォーラム 寄付でつくる地域の未来 参画報告



去る1月23日、びわ湖ホールにて淡海ネットワークセンター主催の「1.23フォーラム」がおこなわれた。さわやか福祉財団理事長の堀田力氏の基調講演に続き、堀田氏と(財団法人)大原美術館理事長 大原謙一郎氏の対談を聞き、地域の未来について学んだ。

日本では、寄付で支える地域支援のシステムがまだまだ浸透していない。

『なぜ、税金の他に寄付が必要なのか、それは誰もが住みよい社会にするためである。社会の問題が自分の事のように感じることができる。寄付をすることで温かい気持ちになれる。』

特に、「寄付は心のボランティア」「人の幸せを喜べる」という言葉が印象的だった。『ボランティアは労力を生かす、寄付はお金で自分の思いを生かしたいと思っている。その気持ちにこたえるためには受け手の反応も必要である。ボランティアには ヤッター という気持ち等の成果を、寄付には報告を可視化することが必要である』とも語られていた。

今回県内のNPOの活動紹介・パネル展示などもあり、地域の底力、地域を良くしたいとの思いを持って実践しているたくさんの団体を改めて目にする事ができた。

一人ひとりの思いが地域を動かし、地域が国をクリエイト(創造する)していくことの実践について考えさせられたフォーラムだった。(清水)

